

会 議 録

会議名	令和5年度 第1回丸亀市自治推進委員会
開催日時	令和5年8月22日(火) 18:30~20:50
開催場所	丸亀市市民交流活動センター(マルタス) 2階 ROOM4
出席者	<p>出席委員 池永文彦、垣渕直子、鹿子嶋仁、秋山ともえ、高尾光一、高木明美、前田誠、岩根綾香、新野智雪、豊岡士</p> <p>欠席委員 関泰子、岩崎正朔、門裕介、和泉敏之</p> <p>事務局 市長公室長 栗山佳子 (市長公室秘書政策課) 課長 真鍋裕章、主任 安藤悠子</p> <p>市出席者 市民生活部長 田中壽紀 (市民生活部生涯学習課) 課長 谷本智子、副課長 後藤幸功、市民協働担当長 直江麻紀、主事 高島のどか</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協働のまちづくりアンケート(職員・市民・市民活動団体・事業者)について 2. まちづくりワークショップ「丸亀まちづくりラボ」について 3. その他
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	<p>定刻がまいりましたので、ただ今から、令和5年度第1回丸亀市自治推進委員会を開会いたします。本日は大変お忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。私は会長が選任されるまでの間、進行役を務めさせていただきます秘書政策課の真鍋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、まず、自治推進委員会委員の皆様へ委嘱状を交付いたします。お名前をお呼びいたしますので、順に委嘱状をお受け取りください。</p> <p style="text-align: center;"><市長公室長より各委員に委嘱状の交付></p>
真鍋課長	<p>それでは、ここで栗山市長公室長より、皆様にご挨拶を申し上げます。</p>
栗山公室長	<p>本日はお忙しい中、本委員会にご出席を賜りましてありがとうございます。ただいま委嘱状を交付いたしました。新しい委員を迎える新たなスタートとなります。2年間どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>丸亀市自治基本条例に規定されています本委員会では、市民の参画や協働という観点で貴重なご意見を賜り、市としても重要な機関だと考えております。</p> <p>本日は、昨年度、本委員会に諮問をいたしました第二次丸亀市協働推進計画の策定に関しまして、協働のまちづくりアンケートやワークショップの結果などに</p>

	<p>についてのご報告をさせていただく予定としております。忌憚のないご意見をいただけますようお願いいたしまして、簡単ですがご挨拶とさせていただきます。</p>
真鍋課長	<p>続きまして、各委員より一言ずつ自己紹介をいただきます。</p> <p><各委員自己紹介></p>
真鍋課長	<p>次に事務局の自己紹介をさせていただきます。</p> <p><事務局自己紹介></p>
真鍋課長	<p>以上のメンバーで自治推進委員会を進めさせていただきますので、よろしくお願いたします。次に、本日配布しました会議資料のご確認をお願いします。</p> <p><資料の確認></p>
真鍋課長	<p>本日の会議につきましては、議事録作成支援システムを使用し、会議を記録いたしますので、発言される際にはお手数ですがお手元のハンドマイクを使用して発言していただくようお願いします。</p> <p>続きまして会長及び副会長の選任に移ります。丸亀市附属機関設置条例第6条第1項に、「附属機関に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める」とあります。いかがいたしましょうか。</p>
高尾委員	<p>事務局の考えはありますか。</p>
真鍋課長	<p>事務局としましては、会長は鹿子嶋委員、副会長は高木委員にお願いできればと考えておりますが、いかがでしょうか。</p> <p><異議なし></p>
真鍋課長	<p>鹿子嶋委員、高木委員におかれましては、ご了承いただけますでしょうか。</p> <p><両委員了承></p>
真鍋課長	<p>それでは、鹿子嶋会長、高木副会長よろしくお願いたします。</p> <p>では、改めまして会長、副会長より一言ずつ、ご挨拶をお願いいたします。</p> <p><会長、副会長挨拶></p>
真鍋課長	<p>ありがとうございます。それでは、丸亀市附属機関設置条例第7条に基づき</p>

	まして、会長に議長をお願いいたします。
鹿子嶋会長	<p>それでは、早速進めさせていただきます。現在 14 名の委員のうち 10 名のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例に基づき、会議が有効に成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>まず議事に入ります前に、事務局より丸亀市自治推進委員会の趣旨についてご説明をお願いします。</p>
安藤	<資料に基づき説明>
鹿子嶋会長	<p>ただ今の説明について、質問はございませんか。</p> <p>無いようですので議事に移ります。次第に従いまして、「1. 協働のまちづくりアンケートについて」、説明をお願いします。</p>
谷本課長	<資料に基づき説明>
鹿子嶋会長	ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。
池永委員	市民アンケートの中で、協働という言葉を知っていたかという質問がありますが、以前に同じようなアンケートをとられているのであれば、どのくらい割合が変わったかを教えていただけたらと思います。
谷本課長	申し訳ありませんが、データが手元にないため、後ほど回答させていただきます。
鹿子嶋会長	職員の方に対するアンケートはこの委員会でぜひやっていただきたいという意見が出て、実際にやっていただきました。ありがとうございます。市民や市民団体に対するアンケートは従来からありますが、今までになかったのが事業者に対するアンケートです。事業者アンケートが加えられた理由と、事業者と市の協働というのは具体的にどのような事例があるのかを教えてください。
谷本課長	近年は、企業においても SDGs などに対する社会貢献活動の機運が出てきています。丸亀市でも、例えば昨年度の都市計画課によるパークレットの実証事業では、民間企業から資金やアイデア、技術を提供していただくきながら取組を進めました。そのため、ぜひ丸亀市内の事業者に対しても、協働の意識や現状をお聞きしたいと思い、アンケートを実施したものです。
鹿子嶋会長	事業者アンケートで「市民活動への協力または支援」の項目がありますが、事業者が行う市民活動というのはどのようなイメージでしょうか。事業者として市民活動に協力したことがあるかという質問なのではないでしょうか。従業員も市民として

	<p>市民活動ができますので、事業者の市民活動についてどのようなものを想定されているか教えていただきたいです。</p>
<p>谷本課長</p>	<p>従業員の方がボランティア活動に参加するようなケースを想定しています。マルタスでも月に一度ごみ拾いをしていますが、その際には近隣の金融機関等の従業員が参加してくれています。また、各地区でコミュニティだよりを発行していますが、そこに企業の協賛をいただき、資金面でバックアップしていただいているケースもあります。</p>
<p>田中部長</p>	<p>海洋ごみに対する取組として、今年、事業者等と市が協働して海ごみの調査や清掃活動を行っており、企業が持つ人材や資機材などを活用して協働する事例も出てきています。</p>
<p>前田委員</p>	<p>事業者が市と協働したきっかけとして「市から打診があった」という回答が6割に上っています。これは市から打診があったから仕方なく対応しているという話なのか、どうしていいか分からなかったところに市から打診がありちょうどよくやりたかったからやっているのでしょうか。協働が強制的になっていないか疑問です。</p>
<p>谷本課長</p>	<p>各事業者の状況は把握していませんが、一つ機会が提供され、やってみて良かったから、次は自主的にやっというということもあると思いますし、市から打診したことが事業者の方針と合致すれば協働に繋がると考えられます。</p>
<p>鹿子嶋会長</p>	<p>ご質問のとおり、半ば強制的な力が働くのは好ましくありませんが、この事業者アンケートの「市と協働する場合、市に対して何を求めるか」という質問で、情報提供が積極的に行われることを事業者から期待されていることが分かりますので、市からの打診がそんなに悪いというイメージではないと捉えることができます。</p>
<p>秋山委員</p>	<p>事業者の方でやり方が分からないとか、きっかけがつかめないというのはあると思います。商工会議所では青年部や女性会が例会をしていますが、そこで協働についての出前講座をしてもらうことはできますか。各事業所の特性やノウハウを生かして、子どもの居場所づくりや夏休みの工作など、何か協働してできることがあるかもしれないと感じました。</p>
<p>谷本課長</p>	<p>そのように言っただけだと、市としても非常にお声がけしやすいですし、行きやすいです。ただ生涯学習課が何うとすれば、協働とは何かといったような大きな話が主になります。そこからさらに詳しい事業内容ということになれば、また別の機会に担当部署からお話しさせていただくことになろうかと思います。市のどんな事業が協働で行われているかという全体的なことが、まずきっかけに</p>

	<p>なると思いますので、ぜひお伺いいたします。</p>
<p>谷本課長</p>	<p>先ほどお答えできませんでした協働の認知度に関する前回のアンケート結果について、ここで回答させていただきます。前回は平成25年1月の市民アンケートで、協働という言葉を知っていますかという質問をしております。今回のアンケートと回答の選択肢が少し違いますが、「以前から内容まで知っていた」が10.4%、「なんとなく言葉のみ知っていた」が33.3%、「知らない」が54.2%、不明・無回答が2.1%という結果でした。協働という言葉を知らない方は増加していることとなります。</p>
<p>池永委員</p>	<p>その時アンケートをとられた対象によっても結果は変わってくると思います。参考までにお聞きしました。</p>
<p>鹿子嶋会長</p>	<p>今回のアンケートは質問形式が少し異なっていて、最初に協働に関する説明も入っていますし、対象者によっても変わりますので、誤差の範囲内のように思います。</p>
<p>高木副会長</p>	<p>職員アンケートの自由記述の部分は、プラスの意見もマイナスの意見も良い意見が多く、深めていくことができれば良いと感じました。協働事業をしているNPOとしても、協働の相手方である市のマイナス部分がどのようなものなのかを知ること必要だと思いました。またコミュニケーションに関する意見が出ていますが、第三者やコーディネートのような役割の人が入りながら深めていくような機会があれば、課題を見つけて取り組んでいくこともできるのではないのでしょうか。そして丸亀市の協働事業の方向性として、どんなものを目指しているかが分かれば良いと感じました。マルタスは注目度が高く、市民活動の拠点であり、支援をしていくという役割がありますが、マルタスの強みをどう生かしていくかを考えることも大事なのではないかと思います。</p>
<p>前田委員</p>	<p>市民活動団体アンケートの対象が147団体ありますが、市民活動団体を取りまとめて情報発信するなど、横のつながりを深めていくようなことは考えていますか。市内のコミュニティでは、ホームページを持っていないところや更新されていないところがあります。得意とする人が協力するのが協働であるなら、行政がコミュニティの情報発信を取りまとめていくのが良いのではないのでしょうか。</p>
<p>谷本課長</p>	<p>市と協働してもらうためには、市の課題や事業の目的、内容を情報発信することがまず第一歩になると思います。市では、広報紙、ホームページ、フェイスブックやインスタグラムなどのSNS等を利用して情報発信していますが、市民の皆さんが受け取りやすいような発信ができていない部分もあると思っています。マルタスにつきましては、登録されている市民活動団体の活動内容等をホームページでまとめて情報発信しております。情報発信を重視し、頻繁に更新しているマ</p>

	<p>ルタスの姿勢は、行政にはなかった姿勢であり、非常にありがたいと思っております。市が十分できていないところに関して、民間の力も借りながらやっていくことについて、これからの情報発信の充実のための具体的な方法として考えていきたいと思っております。</p> <p>コミュニティの情報発信につきましても、個人で興味のある方ならできるかもしれませんが、実際はなかなか難しいと思います。そのようなところを取りまとめるのは連絡協議会や事務局になるかもしれませんが、市として関連があるところについては働きかけをしていくことができると思います。協働推進計画の中にどこまで書き込めるかは分かりませんが、情報発信が必要という大前提に立ち考えていきたいと思っております。</p>
岩根委員	<p>事業者アンケートでは、市との協働に関する情報提供を期待しているという結果になっていますが、これまで市と協働した企業や団体はどのように情報を得たのでしょうか。</p>
谷本課長	<p>積極的な企業の場合は、こういった技術があるからぜひ市と何かできないかと投げかけてもらうことが多いです。また包括連携協定を締結している中で、次はどんなことができるかを探っていくこともあります。</p>
垣渕委員	<p>職員アンケートの回答率が42.4%と低く、少し残念に思います。何か答えにくい状況があったのでしょうか。</p>
田中部長	<p>確かに職員アンケートの回答率としては低いという印象を受けています。今回キントーンというソフトを使って調査しましたが、ネットワークが繋がらない職員には紙で回答してもらいました。紙媒体での提出には手間がかかったということが考えられます。また協働に対する認識にもばらつきがあり、回答率に影響が出たとも考えられます。各課に協働推進員を配置していますので、研修などを通じて協働の意義や必要性を継続的に発信していきたいと思っております。</p>
鹿子嶋会長	<p>それでは次の議題に移ります。『2. まちづくりワークショップ「丸亀まちづくりラボ」について』、事務局より説明をお願いします。</p>
直江担当長	<p><資料に基づき説明></p>
鹿子嶋会長	<p>ただ今の説明につきまして、ご質問はございませんか。</p>
前田委員	<p>ワークショップの参加人数の中で、市民の割合は何%でしたか。</p>
直江担当長	<p>15%でした。参加者27人のうち、市民の方は4人です。</p>

前田委員	市民の参加人数を増やしていく必要があると思います。協働が必要であることを感じてもらうきっかけ作りとして、避難所設営訓練を行ってはどうでしょうか。またワークショップで出た意見をどこかで実行したり、PR したりということは考えられていますか。
直江担当長	今回のまちづくりラボにつきましては、今年度4回の実施で終了となります。ただ、参加者へのアンケートにおいて、今後このようなワークショップやまちづくりに関する講演会等に参加したいですかという質問で、多くの方から参加したいとお申し出いただきましたので、何らかの形で引き続きこういった場を設けたいと考えております。
鹿子嶋会長	防災訓練は具体的な協働の取組として分かりやすいですし、南海トラフ地震が発生すると言われているなかで、参加者のモチベーションも上がるのではないのでしょうか。防災に限らず具体的なテーマに基づいて協働のワークショップを開くのは良いアイデアだと思いました。
田中部長	避難所運営については各コミュニティで自主防災会というものを立ち上げられて、避難所運営の訓練を実際にやっているケースもございます。できるだけ市民の方にはコミュニティの活動に興味を持っていただくと同時に、積極的に関与していただきたいと思っております。
前田委員	私が住んでいる地区のコミュニティでは防災訓練ができていないのが現状です。私のような若い世代にはコミュニティ活動を主導する権限がなく、このままで良いのか疑問です。
田中部長	各コミュニティによって何に重点を置いて活動をしているか異なります。各部会で合意形成をとりながら運営していますので、コミュニティの中で議論することも必要だと思います。
鹿子嶋会長	防災に関してはコミュニティの温度差があります。ただ、人の命に関わる問題ですので、自主性だけに任せていられない問題があると思います。従来どおり地域のコミュニティで防災訓練をしたうえで、丸亀市としても市民と一緒に防災に関する活動をして良いのではないのでしょうか。
秋山委員	PTA を動かすというのはどうでしょうか。また、防災訓練の内容として、人工呼吸や応急措置だけではなく、組織の立ち上げ方などを訓練するのも良いと思いました。
前田委員	PTA の役を仕方なくやっている人もおり、PTA の組織自体が変革を嫌っているように感じられます。若い人をどう活動に参加させていくかを考えると、避難所

	<p>の設営・運営訓練が、地域に関わる経験をするきっかけづくりとして良いと思います。自ら動いて協力できる人を育てることが必要です。</p>
高木副会長	<p>今お話を聞いて、防災というテーマは協働について考えやすいテーマだと感じました。例えば地震のときに、市民と市がどう協働していくかをイメージし、市ができないことを共有していくのも良いと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>他にご意見はございませんか。 事務局から連絡事項がありましたらお願いします。</p>
安藤	<p><今後の日程、eモニター募集について説明></p>
鹿子嶋会長	<p>それでは本日の会議を終了します。お疲れ様でした。 (会議終了)</p>